

絵画を鑑賞して、物語をつくります!

突然ですが、私は、音楽、美術、書道が苦手です。芸術系はどうにも苦手で、中学時代は苦勞していました。苦手意識の1つに「上手な作品をつくらなければいけない」「発言や作品は、芸術的でなければいけない」「先生に怒られるような『もの・こと』をつくったり、言ったりしてはいけない」というものがありました。今の中学生でも、時折、このような考えをもってします生徒もいるようです。

ところが今日、参観した美術の授業は全く異なるものでした。「2枚の絵画からどちらか1枚を選び、自分なりの物語をつくろう!」というものです。授業の中で美術の先生は、「正解とか、間違いとか、ないです。正解がないから面白いのですよ。絵を見て、自分が感じることを素直に表現してみましょう。それを交流して、様々な考えに触れましょう。」と言っていました。この言葉で生徒は自由で個性的な発想をもつことができました。芸術に正解はありませんので、感じたことやイメージしたことを、そのまま発表することができました。参観していて、とても楽しい気持ちになると共に、子ども達の感性に驚かされた授業でした。最後に先生から作者の制作意図の説明がありましたが、子ども達の考えとは全く異なるものでした。「美術は、これでよいのだな」と思いました。

このような授業をとおして、子ども達の感性をさらに高めてほしいと思います。

☆ 美術の授業の様子



☆ 子ども達の学習プリントの記述



